

2026
10.7 (水)12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_dSd0Es2LQGeOGzPQVccG6A

【技術支援】九州大学 Q-AOS

アウトドアの霊性化

- 近代日本における登山の誕生 -



Keywords

近代日本

登山

霊性 (スピリチュアリティ)

アウトドア

カーター ケイレブ 准教授

九州大学 人文科学研究院 哲学部門

ケイレブ・カーター氏は、山岳における宗教性を主な研究テーマとする九州大学の日本宗教・仏教学の准教授です。九州大学文学部において、IMAP および IDOC (国際日本研究修士・博士課程プログラム) の授業を担当しています。

カーター氏の最初の著書『A Path into the Mountains: Shugendō and Mount Togakushi』(ハワイ大学出版会、2022 年)では、日本の山岳仏教の伝統である「修験道」の歴史的発展を考察しています。

コロラド・カレッジ (Colorado College) で哲学の学士号 (BA) を取得後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) のアジア言語文化学科にて仏教学の修士号 (MA) および博士号 (PhD) を取得しました。

ケイレブ・カーター氏に関する詳細情報は、教員プロフィール

(<https://www.imapkyudai.net/caleb-carter>) でご確認いただけます。

私たちは登山を、宗教的な礼拝 (信仰) かレクリエーション (娯楽) のいずれかとして捉えがちです。前者は伝統と敬虔さを体現し、後者は近代性と世俗主義に属するものと考えられています。しかし、こうした分類は「伝統／近代」「宗教／スポーツ」「聖／俗」といった二項対立という不確かな基盤の上に成り立っており、山やより広い自然界と私たちとの関係を単純化しすぎています。実際には、近代登山は自己や自然界、そして霊性 (スピリチュアリティ) に対する新たな思考法をもたらしました。本講演では日本を事例として取り上げ、外国人居住者 (特に英国人) が日本を含む世界各地の山に登り始めた 20 世紀初頭における、こうした思想の形成を探ります。一般的には純粋に世俗的な試みとみなされがちな登山の形成期を、本講演では批判的宗教学の視点から概説するとともに、「なぜ私たちは自らの生活の中で、山や自然環境を求め続けるのか」という、より大きな問いを掘り下げていきます。